日本哲学史研究

第　11　号

《藤田正勝教授・日本哲学史専修退職記念号》

2014 年 12 月

京都大学大学院文学研究科
日本哲学史研究室紀要

目　次

「凍れる音楽」と「天空の音楽」……藤田　正勝……一
藤田さんのこと……福谷　茂……一五
西田幾多郎とセーレン・キェルケゴール
——「実践哲学序論」の一考察——……氣多　雅子……一九
「種の論理」と「社会的なもの」の問い
——田辺、ベルクソン、フランス社会学派——……杉村　靖彦……三八
大拙禅における主体性の問題
——日本哲学からの発信の試み——……水野　友晴……六五
明治日本における宗教哲学の形成と哲学者の宗教的関心
——清沢満之を中心に——……杉本　耕一……八一
『善の研究』における「哲学的思想」とその方法……城阪　真治……一〇三
思慮分別はなぜ純粋経験ではないのか……日高　明……一二六
志向的意識と場所的意識……満原　健……一五六
形成期西田哲学とヴィンデルバントの共有地
——意志的なものというスローガンと文化主義をめぐって——
……中嶋　優太……一七八
二つの行為の哲学
——西田・田辺論争をめぐって——……太田　裕信……一九七
西田における「アプリオリ」概念……石原　悠子……二二〇
前近代の日本思想と日本哲学の境界
——デューイ、フッサール、パトチカを手がかりに——
……ダニエル・バーク……二四五
藤田正勝教授・著作一覧

『日本哲学史研究』バックナンバー目次

第１号（2003）
藤田正勝「和辻哲郎「風土」論の可能性と問題性」
伊藤徹　「幻視された「自己」」
ブレット・デービス「退歩と邂逅――西洋哲学から思索的対話へ――」
杉本耕一「西田哲学の「転回」と「歴史哲学」の成立」

第２号（2005）
平田俊博「日本語の七層と現象学的優位――日本語で哲学する――（前）」
古東哲明「臨生する精神――日本人の他界観――」
宮野真生子「美的生活の可能性と限界――柳宗悦「第三の道」とは何か――」
藤田正勝「西田哲学と歴史・国家の問題」

第３号（2006）
片柳榮一「アウグスティヌスと西田幾多郎」
林鎮国　「西谷啓治――空と歴史的意識をめぐって――」
岡田勝明「日本思想における二重言語的空間――西田幾多郎の場合――」
ステフェン・デル「真の自己の否定性――上田閑照の「自己ならざる自己」の現象学――」

第４号（2007）
清水正之「哲学と日本思想史研究――和辻哲郎の解釈学と現象学のあいだ――」
藤田正勝「西田幾多郎の国家論」
杉本耕一「歴史的世界における制作の立場――後期西田哲学の経験的基盤――」
ジェラルド・クリントン・ゴダール「コケムシから哲学まで
――近代日本の「進化論・生物学の哲学」の先駆者としての丘浅次郎――」
《書評》高坂史朗、藤田正勝著『西田幾多郎―生きることと哲学』

第５号（2008）
岡田安弘「西谷啓治における「科学と宗教」の現代的意義
――生命科学の危機的な諸問題を前にして――」
黄文宏「西田幾多郎の宗教的世界の論理――新儒家の宗教観との比較を兼ねて――」
シルヴァン・イザク「西谷における自他関係の問題」
守津隆「西田哲学批判としての「種の論理」の意義」

ダニエラ・ヴァルトマン「「絶対無」としての「絶対的生」とは何か
——ミシェル・アンリと仏教あるいは田辺元との対話——」

第６号（2009）

伊藤徹「過去への眼差し——『硝子戸の中』の頃の夏目漱石——」

上原麻有子「翻訳と近代日本哲学の接点」

城阪真治「下村寅太郎の科学的認識論——表現作用としての「実験的認識」について——」

日高明「中期西田哲学における質料概念の意義」

濱太郎「西田における形の生命論」

第７号（2010）

米山優「モナドロジーを創造的なものにすること
——〈モナドロジックでポリフォニックな日本の哲学〉に向けて——」

細谷昌志「『マラルメ覚書』と「死の哲学」——田辺哲学の帰趨——」

林晋　「数理哲学」としての種の論理——田辺哲学テキスト生成研究の試み（一）——」

呉光輝「西田哲学と儒学との「対話」」

杉本耕一「京都学派の仏教的宗教哲学から「倫理」へ」

第８号（2011）

高橋文博「和辻哲郎の戦後思想」

田中美子「個性の円成——和辻哲郎「心敬の連歌論について」を読む——」

熊谷征一郎「「存在と無の同一」としての「生成」の意味をめぐって
——西田によるヘーゲル生成論批判の妥当性と意義——」

《書評》水野友晴　井上克人著『西田幾多郎と明治の精神』

第９号（2012）

行安茂「西田幾多郎とＴ・Ｈ・グリーン」

林晋「澤口昭聿・中沢新一の多様体哲学について
——田辺哲学テキスト生成研究の試み（二）——」

岡田安弘「現代生命科学の発展と西田の生命論」

ブレット・デービス「二重なる＜絶対の他への内在的超越＞
——西田の宗教哲学における他者論——」

第 10 号（2013）

《特集・間文化（跨文化）という視点から見た東アジアの哲学》

張政遠　「西田幾多郎の哲学――トランスカルチュラル哲学運動とその可能性――」

林永強　「西田幾多郎とT・H・グリーン――トランス・カルチュラル哲学の視点から――」

黄冠閔　「哲学と宗教の間――唐君毅と西谷啓治における近代性をめぐる思索――」

熊谷征一郎　「西田によるヘーゲル生成論批判の射程」

太田裕信　「場所の論理と直観
　　――西田幾多郎『働くものから見るものへ』と『一般者の自覚的体系』――」

シモン・エベルソルト　「九鬼周造における現象学と形而上学の交わりの問題」

編集後記

第十一号は、「藤田正勝教授・日本哲学史専修退職記念号」と致しました。二〇一二年三月をもちまして、藤田正勝先生は、本学、文学部・文学研究科を退職されました。一九九五年、日本哲学史専修を開設され、以後、その運営と教育、研究に当たり尽力されてこられたわけですが、この度、六十三歳で日本哲学史専修をご退職という道を選択されました。ところが、総合生存学館からの強い要望があり、二〇一三年度四月よりそちらの教授に就任されました。

本特集号への寄稿は、本来であれば「日本哲学史研究室」の出身者であるＯＤの方々全員にお願いすべきでしたが、紙面の都合から、一部の方にのみお願いすることに致しました。残念ながらご寄稿願えなかった方々には、この場を借りてお詫び申し上げます。

編者は、藤田先生のお役目を引き継ぐため、二〇一三年四月、本専修に着任致しました。昨年一年間、在学生の論文指導にはすでに当たっておりました。演習を通して院生、および研究室に引き続き通っているＯＤの方々の実力を見てきましたが、一年間の皆さんの研究成果が、ここに現われたように思います。それぞれが最大限の力を発揮してくれたようでありますが、これも何より、藤田先生の学恩への感謝の表明であるに違いありません。

本号に先生がご寄稿下さいました玉稿は、二〇一三年五月十八日に楽友会館で開かれた「藤田正勝先生送別会」におけるご講演の記録です。このいわば「日本哲学史研究室」での最後を飾るお言葉には、次に向かわれる思索の方向が示されているように思われます。

今後も広がり、そして深まりゆく先生のご研究に大いに刺激を受けながら、私たちは研究者として学び続けるでありましょう。

上原麻有子

執筆者

藤田正勝　京都大学総合生存学館教授
福谷　茂　京都大学文学研究科西洋哲学史専修教授
氣多雅子　京都大学文学研究科宗教学専修教授
杉村靖彦　京都大学文学研究科宗教学専修准教授
水野友晴　京都大学文学研究科非常勤講師
杉本耕一　愛媛大学法文学部准教授
城阪真治　関西学院大学非常勤講師
日高　明　相愛大学非常勤講師
満原　健　京都大学非常勤講師
中嶋優太　大阪教育大学非常勤講師
太田裕信　京都大学・奈良県立大学非常勤講師
石原悠子　京都大学文学研究科・コペンハーゲン大学主観性研究センター博士課程
ダニエル・バーク　京都大学文学研究科修士

日本哲学史研究　第十一号

二〇一四年一二月二一日印刷
二〇一四年一二月二五日発行

発行者　京都大学大学院文学研究科
日本哲学史研究室
京都市左京区吉田本町

印刷所　株式会社タマプリント
青梅市長渕八－一九八－六

STUDIES
IN
JAPANESE PHILOSOPHY

NIHON TETSUGAKUSHI KENKYU

Vol. 11 December, 2014

'Frozen Music' and 'the Music of the Spheres' ····· FUJITA Masakatsu

On My Colleague, Mr.Fujita ····· FUKUTANI Shigeru

Nishida Kitarō and S. A. Kierkegaard: An Analysis of Nishida's An Introduction to Practical Philosophy. ····· KETA Masako

"Logic of Species" and the Question of the "Social": Tanabe, Bergson, and French School of Sociology ····· SUGIMURA Yasuhiko

On the New Notion of "Subjectivity" as Found in D. T. Suzuki's Zen: An Attempted Message from Japanese Philosophy ····· MIZUNO Tomoharu

The Formation of the Philosophy of Religion and the Religious Concern of Philosophers in Meiji Japan with Special Reference to Kiyozawa Manshi ····· SUGIMOTO Koichi

Philosophical Thought and its Method in An Inquiry into the Good ····· SHIROSAKA Shinji

Why is Thinking Not Regarded As "Pure Experience"? ····· HIDAKA Akira

Consciousness as Intentional and Consciousness as Place ··· MITSUHARA Takeshi

Similarities between Early Nishida and W. Windelband: On the Ideal Meaning of Culture and the 'Will-Like Moment' ····· NAKAJIMA Yuta

Two Types of Philosophy of Act: On the Controversy between Nishida and Tanabe ····· OTA Hironobu

Nishida Kitarō on the "a priori" ····· ISHIHARA Yuko

Between "Thought" and "Philosophy": Towards a Phenomenological Interpretation of the Japanese Tradition ····· Daniel BURKE

Professor Fujita Masakatsu "Bibliography"

DEPARTMENT OF JAPANESE PHILOSOPHY
GRADUATE SCHOOL OF LETTERS
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto, Japan